

開会の辞

司会者

黒柳 米司

ただいまから、「朝鮮半島の雪解けなるか？」をテーマとする、国際比較政治研究所主催第三回国際シンポジウムを開催させていただきました。私、司会を務めさせていただきます国際比較政治研究所の所長の黒柳でございます。よろしくお願いいたします。

本日のシンポジウムに際して、米国ジョージア大学からご参加いただきましたハンシク・パク先生、韓国延世大学の文正仁先生を初めとする先生方、ご多忙のところ参加してくださいました会場の皆さん方にも、最初に厚く御礼を申し上げます。

本題に入ります前に、ごく手短かに、このシンポジウムの問題意識を確認させていただきますと思います。

ご存じのように、この地球上には、冷戦の結果、一つの民族が二つに引き裂かれた分断国家が四つございます。一つはヨーロッパにございまして、東西ドイツであります。残る三つは全部アジアにございまして、南北朝鮮、南北ベトナム、そして中国・台湾であります。この分断国家の四つのうち、三つまでもがアジアにあるということ自身が、実は冷戦がいかにアジアにおいて深刻であったかということを物語っているわけです。

ところで、この四つの分断国家のうち、二つまでが、これまでのところ統一解消されております。まず、南北ベトナムは、北ベトナムによる南の軍事的制圧という形で、武力によって解決されました。第二番目に、東西ドイツは、西

ドイツによる東ドイツの併合といいますが、合併という形で統一が達成されたわけでありませう。

今回のメインテーマであります南北朝鮮、朝鮮半島では、このような軍事的な統一、あるいは一方が他方を飲み込むという形の統一、そのどちらでもないものが、事実上模索されているように思われます。

今年の六月十三日から十五日まで、韓国の金大中大統領がピョンヤンを訪問されて、北朝鮮の金正日総書記と首脳会談を行い、十五日に共同宣言を出されたわけです。その内容については、本日の講師である文正仁先生から細かくお話があるはずですが、このような首脳会談と共同宣言を通じて、朝鮮半島が現在激しい勢いで変動を遂げつつあるように思われます。

我々日本におりますと、テレビ、新聞等のメディアを通じて、北朝鮮という国、あるいは金正日という指導者に対しては、これまでのところもっぱら消極的な、あるいは猜疑心に富んだ報道がなされてまいりました。北朝鮮は恐ろしい国、わけのわからない国、脅威に満ちた国というふうな報道がなされておりましたし、金正日総書記も、危険な人物、謎に満ちた人物というふうに言われてきたわけです。

しかし、五カ月前の首脳会談を通じて、このような北朝鮮のイメージ、あるいは金正日総書記のイメージは非常に大きく変化しつつあるように思われます。もちろん、韓国の内部でも、それらの中に大変な変化が、北朝鮮に対するイメージの変化が起きているわけです。

しかし、そうは言いながら、このように戦後ほぼ五十年間にわたって、朝鮮半島には敵意と不信感に満ちた状況が続いておりましたので、たった一度の首脳会談、あるいは共同宣言で、事態が根本から変わるということについては、これに疑いの目を持つ向きがもちろんあるわけです。

こういう意味で、朝鮮半島の情勢は果たしてなぜこのようなことが起きたのか、そして、このような変化はどこに

導こうとしているのかということ、私を含めてここにおられる方々、さらには世界じゅうが注目しているわけでありまして、今回のようなシンポジウムは非常に時宜を得たものというふうに自負しております。

今回のセッションは、午前と午後、二つに分かれております。午前のセッションでは、「首脳会談の解剖」というテーマで、そもそも韓国及び北朝鮮が、どのような考えからこういう首脳会談を行ったのだろうかということに焦点を当てて、お二方のご報告をお伺いします。プログラムにありますように、お一方は、韓国延世大学の教授、文正仁先生でございます。文先生はソウルの立場からお話をいただくこととなります。そして、もう一方は、金己大先生、新瀉国際情報大学の教授でございますけれども、金先生には、むしろ北朝鮮の側に比重を置いたお話を頂戴いたすこととなります。このお二方の報告の後、本学経済学部の永野教授の方から、コメント及び質問といったようなところ、いわゆるディスカッションとしてのお役目をとっていただきます。

昼食を挟みまして、午後のセッションでは、「朝鮮半島情勢の国際的インパクト」ということで、このような朝鮮半島の変化が、国際社会にとって、とりわけアジア・太平洋にとってどういう意味があるのかというところを分析していただくこととなります。午後の部については、また始まりますときに、講師の先生を含めてご案内させていただきます。

以上が、本シンポジウムの目的意識及び大まかなシンポジウムの構成であります。

それでは、パネリストの先生方のお話をお伺いしたいと思いますと思いますが、本日は、英語から日本語への報告は、逐次通訳をさせていただきます。少しお話しされた後、それを日本語に直す。で、もう一度、英語でお話しして日本語というふうになります。「朝鮮半島の雪解けなるか？」というタイトルで、それぞれの先生方には、概ね二十五分ぐらいのご報告を頂戴いたしたいというふうに考えております。通訳を入れて、五十分ぐらいということになります。